

## 水産政策審議会第63回企画部会への意見提出について

特別委員 遠藤 喜志雄

## 沿岸漁業

## 魚種・漁法の格差大

魚種よっての相場の違い・・・平目、あいなめ、真ガレイ等  
 漁法よっての相場の違い・・・つり、定置網、刺し網等

## 外箱に明記されても良い

水揚げ港 水揚げ日 漁法  
 徹底されていない

## 最近の取引方法の変化

生産者・・・末端業者・消費者 ネット

&lt;メリット&gt;

鮮度が良い

少量ずつ購入可能

安い。コストが明確

温度管理されている

&lt;デメリット&gt;

クレームの対応不可能

代金の未回収

多くの中から選べない

受注が増えると対応できない

## 沖合漁業

## 漁業所得の安定

漁獲量の不安定から、船底にて、チルド庫に併設し冷凍処理施設・冷凍庫を完備させ、生鮮魚が必要以上にならない様にする  
 水揚げ額の設定必要  
 行政が水揚げ金額に着目し、最低額を超えないものに補助金等を出すべき

## 漁協が漁獲量の枠を管理

根こそぎ獲る漁業は止めるべき

## 遠洋漁業

冷凍の活メ脱血かつおの様に、高品質の商品を増産し専門店  
に向けて販売すべき

## 養殖

安全で安心な魚を作ること、最も重要

環境はもちろん、許認可されている餌を使用  
人が口にするものであるから！  
いつ処理したものか？（丸魚・活魚に多く見られる）  
外箱明記必要

産業の技術向上

様々な魚種の養殖に取り組み、消費マーケットは、  
日本から世界中へ。世界で通用するレベルの向上

低コスト化

魚粉を少なくしてコストを落とすと記してあるが、一概に言え  
ない。生産地域別で魚粉割合が異なる  
魚粉と言っても7種類ほどがある。  
天産品との価格差が問題。調整必要か？  
天然と言ってもすべて安全なのか？  
大規模集約は、必要であるが、適正な収入っていくら？

※これらの事に行政がもっと入り込み、透明度を上げ、魚食のレベルを上げ販路拡大

## 栽培漁業

養殖と同じく必要

さげますに代表されるが、放流事業をもっとPRすべき  
魚種を増やす研究費用をもっと取るべき  
外箱にも放流ものを記して良いのでは。決して悪いものではない。  
これだけ、天然物が不安定。時代は変化している。

漁協や行政が管理すべき

## 親水性レクリエーション

漁業は変わる、作る・育てる・蓄える。

国の政策として行うべき。もっと入り込むこと  
日本は魚食文化の最先端を行きべき

## 白書の作成方針等

生産者、流通業者、消費者までを対象に解りやすくできていると思う。  
しかし、消費者に興味を持ってもらえるか？継続議案である  
漁業の変貌・変化をエンドユーザーである消費者に、映像を使って、  
現状を、知ってもらうこと恒久的である  
だから、こういう方法を取っている理解度を上げてほしい